

普段の仕事の技 社会貢献に 神戸の団体が活動報告

ボランティア活動の参加者らが意見交換したフォーラム。神戸市長田区若松町5



社会貢献活動に興味を持つ社会人らと、多彩な人材を求めるNPO法人や地域

するフォーラムが9日、神戸市長田区若松町5、新長田勤労市民センターであった。事業の参加者らが体験を語り、仕事のスキルを生かしたボランティア「プロボノ」への挑戦を呼び掛けた。会場を埋めた約150人が耳を傾けた。

多様化する社会の課題に、行政やNPO法人、個人が連携して向き合おうと、市が2018年度から事業を始めた。20〜60代の会社員、学生、高齢者ら79人が参加。それぞれチームを組み、計17のプロジェクトに取り組んだ。

母親らでつくるNPO法人「ママの働き方応援隊」で、資料やマニュアルづくりを任された。メンバーは仕事の合間に活動拠点の見学や会議を重ねた。東原さんは「普段は会わないような人たちとの交流によって世界が広がり、刺激を受けた」と話した。

パネル討議には、NPO法人・まなびとの中山迅一代表らが登壇。中山さんは「安定した持続可能な事業にするために、NPOには利益が出るような仕組みも不可欠。いろんな技術や知識を持った人材が必要」と語った。

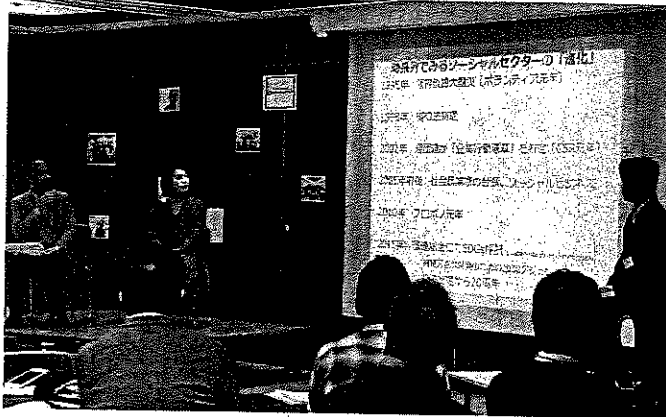
(末永陽子)

社会貢献の輪広がる

神戸市事業 活動や成果報告

社会貢献活動を希望する人材と、課題を抱えた団体をつなぐため、神戸市が2018年3月から始めた「ソーシャルフリッツ事業」にまつわるフォーラム(神戸市主催)が新長田勤労市民センター(神戸市長田区)であった。約150人が参加し、1年間の活動の成果を振り返った。事業は、社会貢献したいと考える人がこれまで仕事などで培ったスキルとともに登録し、支援を求めるNPO法人や自治会などの

団体とマッチングする仕組み。1月末までに会社員や行政職員など94人が



パネルディスカッションに臨む認定NPO法人「サービスグラント」の嵯峨生馬代表理事(左)ら参加者たち
—神戸市長田区の新長田勤労市民センターで

支援を求める団体が活動を紹介します。協力者を求めるマッチングの場が設けられた。また、パネルディスカッションもあり、登録者から「支援の経験が仕事にも生かされた」などの意見も

お仏壇・墓石から
ギフトまで…



浜屋

フリーコール
0120-1616-94
<http://www.hamaya.co.jp/>

登録し、市内11団体が支援を受けた。登録者は自身のスキルを生かし、団体の新規事業計画の策定やオンラインアンケートの作成などに協力した。フォーラムでは、支

上がった。市から事業を受託する認定NPO法人「サービスグラント」(東京都)の嵯峨生馬代表理事(44)は「1年目としては勢いがあるスタートが切れた。これからも協力の輪を広げていきたい」と話した。
【目野創】